学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

学類のディブロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのティブロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。												
学類およびコースのCP(カリキュラム循成方針)						コースの学習成果(②=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)						
【学類のCP】  必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】  米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテクストしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。							グローバルな視 座から俯瞰的に 英語圏の文架する 社会をを獲得して いる。	つ俯瞰的な視 点から自国の 文化を見つ め、それを考	た文献を正確に読解し、確実	語を使って表現		
コース(専	(攻)のカリキュラム											
科目番号	科 授 習生 名科 ### ### ### ########################			前期	後期							
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概念を把握する	1	*		0	© ^					
16002	国際政治史A 国際政治史B	近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する。 暗記的歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性	2	*	_	Δ	Δ	0	Δ	Δ		
16004	国際関係論	の元に進行することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。 主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2		*	©		0				
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、ここのテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。	2		*			0				
16005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今ー度問い直す。我々の価値観なども日本の持つイメージによって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみに囚われずに、国際的な基準で、公正に、公平にことがらを判断する力を身につけることを目標とする。	2		*	©	©					
16006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体 的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際 間労働・資本移動などの個々の事例を理解する。	2	*			©					
16007	世界システム論	<ol> <li>政治・経済・文化の一体化した現実を、それぞれの側面に解き ほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。</li> <li>世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを 分析する能力を身に付ける。</li> </ol>	2		*		©	0				
16008	国際貿易論	国際経済・貿易の基礎的知識を身につける グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学	2	*		0	0					
16008	国際貿易論	ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に 理解し、判断する力を修得する。	2	*			Δ					
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する 国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得す	2		*		Δ					
16010	異文化理解 国際経済学振論	る。 グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながってい るのか、また国際経済関係を考えるためにはどのような視点が必	2	*			Φ	©				
16011	日本文化	要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。 戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するととも に、日本文化の見方を身につける	1		*			0				
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようになる	2	*				0				
16013	日本史概説	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める 日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分	2		*			0				
16014	日本経済論	析・説明する視角を身につける。	2		*			0				
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力をつける。	2	*				0				
16016	日本政治・外交史	幕末維新期〜昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する。	2	*		Δ	Δ	0	Δ	Δ		
16017	日本政治・外交論	- 英語のリーディングやリスニングを上達させる。 ・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する。 ・国際的な観点から、日本の政治・外交史を理解する。			*	Δ	Δ	Δ	0	0		
16018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会文化的なルールについての意 識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるように する。	2	*				Δ				
16019	日本民俗文化論	日本は長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、 日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを、主に明治時代以降 の日米間の関係を中心に理解する。	2	*				Δ				
16020	日本語学概論	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識を音声, 語彙, 文法, 文字表記などの分野ごとに身につけ, 日本語への理解と関心を深めることができる。	2	*	*			Δ				
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概載できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象 を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教え るための基礎的な事項を理解する。	2	*		Δ	Δ	0				
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2		*			0				
16023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その 受容の歴史について理解を深める	2	*	L			0	<u> </u>			
16024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるよう になる	2	*				0				
		L					l .		ı			

<b>学域</b> 名	人間社会学域
1 -24.11	ハロエムナツ
▍	同陸学精
一人校口	日附丁及
¬―スタ	★ 英コース

学類のディブロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化とのくしなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディブロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					I—ス 立を							
学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(⑥=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、 △=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)						
【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテクストしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。						英語圏の文 化・社会の存 在様態につい ての高度な知 識を習得して いる。	グローバルな視 座から俯瞰的に 英語圏の文化・ 社会を考察する 能力を獲得して いる。	つ俯瞰的な視 点から自国の 文化を見つ め、それを考	に読解し、確実	自らの論理的 な思考を、正確 かつ高度な英 で使力を有し でいる。		
コース(項	(攻)のカリキュラム											
科目番号	授 <b>名</b> 科 目	学 生生の 標学	学年	前期	後期							
16038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統 文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				Δ				
16039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統 文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		*			Δ				
16025	<b>树</b> 釈理論 I	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。 また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も 身につく。	2	*					©	0		
16026	<b>翻訳理論</b> II	受講生はまずは、英文を正確にかつ緻密に読む力が養われる。 また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も 身につく。	2		*				0	0		
16027 16028	英語パブリックスピーキング I A 英語パブリックスピーキング I B	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		Δ	Δ	0		© ©		
16029	英語パブリックスピーキングⅡA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。 様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	т.	*	Δ	Δ	0		0		
16030	英語パブリックスピーキング II B 英語表現法 I A	様々は光品が返にかいて必要な基本的能力を考にうける。 文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、 エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につけ る。	1~2	*	*	Δ	0	0	<b>©</b>	© ©		
16031	英語表現法IA	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspecives related to Japan's political history.	1~2	*		Δ	Δ	0	0	©		
16032	英語表現法IB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、 エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につけ る。	1~2	*			0		0	0		
16033	英語表現法IIA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、 エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2		*		0		0	0		
16034	英語表現法IIB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を読んだり、 エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2		*		0		0	0		
16035	英語コミュニケーション Ι	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*		0			0	0		
16036	英語コミュニケーションⅡ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2		*	0			0	0		
51301	アメリカ研究A	アメリカの歴史、社会、文化の中から主要なファクターを形成する と思われるテーマを取り上げ、関連するテクストを輪読しながら、 学生みずからが問題提起をおこない、その答えを模索する。	2~3	H22		0	0		0			
51302	アメリカ研究B	アメリカ文化の潜在的な構造に着目し、具体的な根拠をもって独 自の解釈を提示する能力を養う。	2~3		H22	0	0					
51303	イギリス研究	国際政治、イギリスの現在の姿を知る視野を身につけることができる。それにより、現在の世界を取り巻代問題の一側面を理解することができる。イギリスの歩み自身を理解することで、外交の歴史を今日的問題と絡めつつ再照射し、様々なアクターと関与したイギリスを多角的に理解することで、後の研究を行う視座を身につける。	2~3	H22		©	©	0				
51304	アメリカ文化関係論	アメリカの文化を構成する諸要素の中から経糸を形成すると思われるテーマを取り上げ、関連するテクストを輪読しながら、多様なアメリカ文化の一面に光を当てる。	2~3		H22	0	0		0			
51305	アメリカ地域文化論	通史を扱う講義を通じ、アメリカ文学・文化についての基礎的な知識を習得することができる。	2~3		H22		0		0			
51306	イギリス文化関係論	イギリス人のものの考え方の基盤をなす、哲学的、思想的、美学 的側面に関する理解が深まる。	2~3	H22		0	0	0	0	0		
51307	イギリス地域文化論	19世紀から現代にかけてのイギリス文学史を理解することで、英語圏文化の理解に必要な知識を身につける。	2~3		H22	0	0	0	Δ			
51308	米英言語思想論	英語論文の精読を通して、現象について深く観察し、理解を深めることで、言語に対する深い洞察カ・分析力を身につけると共に、 自身の英語カ向上に生かせるようにする。	2~3	H22		0			0			
51340	北米文化人類学演習	北米諸地域における諸現象を文化人類学的な視点から理解できるようになる。また、日本における諸現象との比較文化人類学的な視点も身に着く。	2~4	H22		0	<b>©</b>	0	Δ	0		
51343	異文化言語管理演習Ⅰ	異文化インターアクションにおける諸問題を論理的に分析し、異文 化適応スキルを身につける。	2~4	H22		Δ	0	0	0	0		
51344	異文化言語管理演習Ⅱ	言語管理理論および社会文化理論を用いた異文化接触場面特有 の現象を考察し、異文化インターアクション能力を養う。	2~4		H22	Δ	0	0	0	0		

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

コース名	米英コース	1								
- 71 <u>u</u>	****									
学類のディブロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との〈しなやかな共生〉を実現できる真の国際人を育成するこ 上を目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コース のディブロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を 受与する。 受与する。							実付けられた、 人材養成目標に			
ぴコースのCP(カリキュラム編成方針	)				コースの学習成果(⑥=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求め られる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、 △=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目)					
【学類のCP】  必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのCP】 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとして活用するために不可欠なコンテクストしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。						座から俯瞰的に 英語圏の文化・ 社会を考察する	つ俯瞰的な視 点から自国の 文化を見つ め、それを考	た文献を正確 に読解し、確実 な情報基盤を 築く能力を有し	自らの論理的 な思考を、正確 かつ高度な英語を使って表現 する能力を有し ている。	
(攻)のカリキュラム										
授 名 名 科 目	学 音生 様学	学年	前期	後期						
米英メディア文化論	アメリカ文化表象の深層にある集団的思考の方向性を具体的に	3~4	H22		0	0				
米英環境思想論	環境思想の主要な特徴と変遷を理解し、重要なコンセプトを用い	3~4	<u> </u>	H22	0	0	0	0	Δ	
	・米英の芸術文化への理解を深め、文化表象を読み解く方法を習				_				©	
アメリカ政治・外交論	<ul><li>・英語のリーディングやリスニングを上達させる。</li><li>・政治学及び国際関係の専門用語を紹介する</li></ul>		H22	1122	0	©	0	0	©	
アメリカ経済論	アメリカ経済の構造や世界的役割を把握する	3~4		H22		0				
北米文化論	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の 観点から考察し、現代に通ずる課題を読み解いていく。 (a) 英語圏出身の人と効果的にコミュニケーションをはかるために	3~4	H22		0	0	0			
英語圖文化論	必要な思考と行動様式に関わる広範囲の能力を習得すること: (b) 職場で異文化間コミュニケーションを効果的に行うための必要最低限の英語力を習得すること。	3~4	H22		0	0	0	Δ		
イギリス政治・外交論	治・外交論の授業を通して、イギリス外交を研究する意義を理解することができる。それにより、日本とイギリスの比較、日米関係と 英米関係の比較、日本/アジアとイギリス/ヨーロッパの比較の 視点を養うことを可能にする。	3~4		H22	0	©	0	0	©	
米英文学演習	・国民性の発露たる文学作品を通して、米英を中心とした英語圏の人々の世界観、人間観が理解できる。 ・文学作品を鑑賞する際の、基本的な作法が身につく。	3~4	H22		©	0	0	0		
同時通訳入門	同時通訳をおこなう際に必要とされる、さまざまな能力の基礎的な 力が習得できる。	2~4	H22		Δ			0	0	
米英研究特論A	イギリスの豊饒な文化を築いている、さまざまな文化的事象に関 する基本的な知識が習得できる。	2~4	H22		0	0	0			
米英研究特論B	アメリカの豊饒な文化を築いている、さまざまな文化的事象に関する基本的な知識が習得できる。	2~4			0	0	0			
アカデミック・ライティング IA	日本語と英語の書き方の違いに留意させ、論理的文章構成法に 基づいたエッセイライティングを身につけさせる。オーストラリアの 大学生とのメールでの交流を通し異文化学術ネットワークの形成	3~4	H22		0	0	©	0	©	
アカデミック・ライティング IB	留学先でのレポート提出に十分対応できるようなアカデミッゥ・ライ ティングに関する諸技能が身に着く。	3~4	H22		Δ	0		Δ	0	
アカデミック・ライティング Ⅱ A	客観的な資料を元に、自分の意見を英語で論理的に述べることが できる。	3~4		H22		0			0	
アカデミック・ライティング 🛚 🛭	学術的慣用表現を用いた文章構成法、引用法、パラフレーズ、要 約の仕方、帰納的書き方などを学び、批判的分析力を養い英語 論文の書き方を身につける。また、オーストラリアの大学生との メールによる異文化交流で得た情報を活用し論述課題を完成させ ることで、英語での情報収集能力を習得する。	3~4		H22	0	0	©	0	©	
英語グローバルトピック I A	英訳された現代日本文学を読み、日本文学・文化の世界的な受容について、留学生と英語で論じる力を習得する。	3~4	H22		0	0		0	0	
英語グローバルトピック I B	論理的に書かれた英語文献を理解し、抽象的な文章であっても的確に理解できるようになる。	3~4	H22					0	0	
英語グローバルトピックⅡA	英語の読みを正確で緻密なものとするとともに、パラグラフリー ディングの力を身につける。併せて、世界の現状について理解し、 山積する諸課題への対応策を模索する。	3~4		H22	0	0		0	0	
英語グローバルトピック II B	問題を解決するための糸口を見つけ出すことができる。			H22	0	0	0		Δ	
国際英語コミュニケーションIA 国際英語コミュニケーションIB	日本の歴史・文化・社会を英語で説明する 国際試験に対応できる英語力を身につける				0	0	0	© O	0	
国際英語コミュニケーションIA	職場で、英語を使ってコミュニケーションを効果的に行うために必要な英語力を習得すること。	3~4		H22	-	Δ		0	0	
国際英語コミュニケーションⅡB	国際試験に対応できる英語力を身につける	3~4		H22	0	0	0	0	0	
米英研究演習A	た、論を組み立ててゆくか、卒論作成にあたっての基本について 理解する。	3	H22	H22	0	0	0	0	0	
米英研究演習B	テーマの選び方、資料の集め方、集めた資料の利用の仕方、論 の組み立て方、英文の書き方、論文の体裁の整え方にいたる一 連の作業を習得できる。	4			0	0	0	0	0	
	ル化が進んだ21世紀に、国際社会への たし、外国・異文化への関いと探求心、 対国・異文化への関いと探求心、 対コースのCP (カリキュラム編成方針で に、外国・異文化への人がでは、 対話では、英語では、英語では、英語では、 では、英語では、英語では、英語では、 なるとがしてでは、英語では、 なるとがしたでは、英語では、 なるとがしたがある。 にないの方ができた。 なるためにおります。 なるためにおります。 なるためにおります。 なるためにおります。 なるためにか要な総合的知識など、 なる。 なる。 なる、 なる。	プロマ・ポリシー(学位長等方幹)  ルルが進んだ記世記に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな天生)を実践できる夏の間に、外国・異文化への間から世末心、ユミュニケーション化力を持ち、科英国副的主義で活躍できる人材にマ・ポリシーで限げた人材養成目標への別述を造じて、この学類の人材養成目標に影達した者に学士(印度) で、ポリシーで限げた人材養成目標の別述を造じて、この学類の人材養成目標に影達した者に学士(印度) で、ポリシーで限げた人材養成目標の対象が、選択科目(イレケーンシップ)、「異文化体験薬目から含む2単位) かなっては、英語調の実験的な訓練を主間に置いた演習形式の検験を行間では単位から、選択科目(イレケーンシップ)、「異文化体験薬目から含む2単位) かないこれ、英語画の実験的な訓練を主間に置いた演習形式の検索を用意すると同時に、実施を合うに実可のよい、大切による活躍の実験的な訓練を主間に置いた演習形式の検索を用意すると同時に、実施を合うに実可のよい、大切による話画の実験的な訓練を主間に置いた演習形式の検索を用きすると同時に表示がない。「対別力を持つな事情を持つます。」  **実まず見想動  **実まず見想動  **実まず見想動  **実まず見を持ちいた。「アリカ文化素のの選所にある。実施し、重要なコンセプトを用いて環境を必ずの場所を示め、大変を表をあれて、方式を表を表がれて、で環境を必ずの場所を示め、大変を表を表がれて、で環境をある。アリカの場所を示め、大変を表を表がれて、対策を決定した。アリカルに考えることができるようにな、アリカル経済を持ちいました。アリカル経済・インシールでの選をが、対しました。「対しなの場からでは、同じによるで表がよりました。」  **実に関すると、対したの場所によった。「中心などの場合」に行ったのの必要者  「現底の実施」を提出に対してるままな、イギリスの選の方を書すると、と、機能の実施、大型は、アリカルのの大を書すると、と、機能の実施、大型・アリカのの表を表して、大型・アリカのの表を表して、大型・アリカのの表を表が出まれて、アリカルでもは、オース・アリカルでも、オース・アリカルでも、イギリスの国教な、アリカの意教な、大を書いている。さまざまな文化的事象に関するとあかりない、特別ではできる。それにより、日本の生が大の学的を、アリカの意教をと思いている。まださな文化の事象に関するとあかりない、特別できるとうなアルテンのでは、また、アリカの意教をと思いました。「新知の表の大」を書き、などのよった。「第一方では、イギリスの主義を表が表しました。」  **実まが実施りついた。「第一方では、イザリスのでは、「オース・アリカのでは、イギリスのでは、「オース・アリカルできるとうなアルテンのでは、「オース・アリカルできる。」「オース・アリカルできるとうなアルトでのとまた」「大型・アリカルできるとうなどの表が上に、日かの意を表が上に、「オース・アリカルできるようなどを要いている。こまでまな文化の事象に関することに、「東生のなどを要いている」と表が表が出まれて、「オース・アリカルできるとうなアルトでのと表が表がまながまた。」  **実まが実施では、オース・アリカの意味を表がまた。「オース・アリカルできるとうなどの表が上に、「オース・アリカルできるとうなどが、オース・アリカルできるとうなアルトでのと表がまながまなが、また。「オース・アリカルできるとうなアルトでのと表が、オース・アリカルできるといなどのできるといなどが、オース・アリカルできるといなどが、オース・アリカルできるといなどが、ストス・アリカルできるといなどが、ストス・アリカルできるといなどが、ストス・アリカルできるといなどが、ストス・アリカルできるといなどが、ストス・	プロマボリシー(学位度も方針)  小にが多点が2世紀に、国際社会への削弱がを持ち、其文化との代点やかな共生)を実施できる直の国際人を に、外間・実文化への助らと様本の、3ミュニケーション能力を持ち、得来国際的業所で活度できる人材を育ても 「マボリシーで同けた人材美点目標への到途を達して、この学板の人材集成目標に対慮した名に下生・(国際学)  「国際学人門」、「日本文化」、「本業論文」、専門基礎書所も参拝目(国話・社会系の組合など、多ちな 「ローバルに対応できるコミュテーション能力を考えた人材の育成のために、少人数でおことが演演を中心と についたに対応できるコミュテーショを助かを構えた人材の育成のために、少人数でおことが演演を中心と についたに対応できるコミュテーショを助かを構えた人材の育成のために、少人数でおことが演演を中心と についたに対応できるコミュテーショを助かを構えた人材の育成のために、少人数でおことが演演を中心と についたに対応できるコミュテーショを助かを構えた人材の育成のために、少人数でおことが演演を中心と のとのごからかられて可なのエリアクストにつる実施を対象と、社会についたの正かの実施・知識を有成する場所を があるから利用の大きで表示を表示を表示を表示を対象を があるから利用の大きで表示を表示を表示を表示を対象を があるから利用の大きで表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	(プロマ・ポリシー(学位養与方的)  してが多点が2世紀に、国際社会への同窓のを持ち、其文化との(しなやかな)ま生)を実施できる点の国際人と育成うたし、外面、実文化への同心と使水心、ミニュケーシュル 他から付き、料本園館の実施できる人材を育てる。	(プロマ・ポリシー 学位機争力的)  1 (17 で ポリシー 学位機争力的)  1 (17 で ボリシー 学位機争力的)  1 (18 で ボリットで で	(プロマ・州リシー (学校授・万余)	プロマ・ボリン・ (幸 監接 会か の) 等 からもち、 果で たらが (しゃかた 月山 きま) できない (ない かかた 日山 きょ) できない (ない かかた 日	プロマボリン- 「伊藤田本の動物 かまわ。 東京においているかれた。こうなのできるの形態、おき様です。 日本のまるが関からません。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるの関からない。 「日本のまるのでは、「日本のまるのでは、「日本のまるのでは、「日本のまるのでは、「日本のまるのでは、「日本のまる」」」」 「日本のまるのでは、「日本のまる」」 「日本のない」」 「日本のまる」」 「日本のまる	***********************************	

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	米英コース

## 学額のディプロマ・ポリシー(学位授兵方針) コースのディプロマ・ポリシー(学位授兵方針) グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との〈しなやかな共生〉を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コース 自国の歴史や文化についての深い知識は言うに及ばず、アメリカ・イギリスをはじ めとする英語圏の文化・社会についての広範な知識と深い理解に裏付けられた、 優れたコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。こうした人材養成目標に ンとを目的とし、外国・英文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コース のディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を 授与する。 到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材育成目標に到達するた めには、以下の学習成果を上げることが求められる。 コースの学習成果(の=学習成果を上げるために開修することがとくに強く求め 学類およびコースのCP(カリキュラム編成方針) られる科目、〇=学習成果を上げるために履修するこ △=学習成果を上げるために**履修することが求められる科**目) -バルな視 グロ 【学類のCP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12 単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を 設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題 座から俯瞰的に 英語圏の文化・ 社会を考察する つ俯瞰的な視 た文献を正確 化・社会の存 な思考を,正確 に読解し、確実 な情報基盤を かつ高度な英語を使って表現 在様態につい 点から自国の ての高度な知 文化を見つ 能力を獲得している。 め、それを考 察する能力を 探求型の自己学習を指導する。 識を習得して 築く能力を有し する能力を有し いる。 ている。 ースのCP】 ている。 米英コースでは、英語運用の実際的な訓練を主眼に置いた演習形式の授業を用意すると同時に、英語をさらに実用的なツールとし 修得している。 て活用するために不可欠なコンテクストしての英語圏文化・社会についての広範かつ深い知識を育成する講義を開講して、英語を駆 使して活躍する国際人たるに必要な総合的知識基盤と能力の構築を狙う。 ース(専攻)のカリキュラム 名料 ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解で きる ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務に 36001 インターンシップ H22 0 0 ついても理解できる ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる 自分で問題を提起する能力、それにみずから答えを導き出す能 36002 卒業論文 4 0 0 0 0 0 カ、それを論理的に英語で説明する能力が習得できる 海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーションカを習得し、さまざまな文化に親しむ。 異文化体験実習 I (海外) 0 0 0 0 単に定める ドイツでのサマーコースに参加してドイツ語のコミュニケーションカ 36151 異文化体験実習 I (ドイツ) Δ をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。 プランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を 高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの 36152 異文化体験実習 I (フランス) 0 文化に親しむ。 異文化体験実習 I (中国) 異文化体験実習 I (中国) 中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上 36153 0 0 中国社会・文化への理解の促進と中国語能力の向」 36154 0 0 こんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が 36155 異文化体験実習 I (イギリス) 0 0 0 習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。 異文化体験実習Ⅱ(海外) 36201 異文化体験実習 I で学んだ語学の習得 1~4 0 0 36202 異文化体験実習Iで学んだドイツ語の習得 異文化体験実習 Ⅱ (ドイツ) Δ フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を 高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。 異文化体験実習 Ⅱ (フランス) 0 36203 中国語検定試験二級合格を目指す。 36204 異文化体験実習Ⅱ(中国) 0 ンブリッジj語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けると 異文化体験実習 II (イギリス) ともに、イギリスの諸文化、歴史にじかに触れることで、英国の層 0 0 0 0 0